

渡良瀬川だより

No. 194

平成31年3月1日

国土交通省 関東地方整備局

渡良瀬川河川事務所 地域広報官

「わたらせ 川のふれあい館 せせら」前の渡良瀬川へ サケの稚魚を放流しました ～Part 1

2月17日（日）、足利市岩井町の「わたらせ 川のふれあい館 せせら」前の渡良瀬川で、サケの稚魚の一斉放流会を開催しました。この放流会は、サケが遡上する自然豊かな川づくり及び、命の尊さ・守ることの難しさを学んでいただく取り組みとして平成13年度から始まったものです。参加された皆さまは、昨年12月に渡良瀬漁業協同組合から提供していただいた受精卵をご自宅等でふ化させ、約2ヶ月間稚魚を大切に育ててきました。今年の冬は温暖な日も多く、水温の調節が難しかったようです。

放流会当日は天候にも恵まれ、お子様連れの家族など202名（午前の部、午後の部合計）の方が参加されました。水槽に入れて持ち寄った稚魚をバケツなどに移した後、渡良瀬川の水を少しずつ入れ、約7℃の水温に稚魚を慣れさせてから、少し時間をおいて静かに放流していました。

サケの稚魚は元気良く、渡良瀬川のなかを泳いでいました。



大きくなって
戻ってきてね



渡良瀬川（福寿大橋上流付近）へ放流しました

「地域インフラサポートプラン2018関東」の取組み ～未来の担い手育成～

桐生工業高校 現場見学会

秋山川右岸大古屋地先護岸工事 河本工業（株）

12月11日（火）に、秋山川右岸大古屋地先護岸工事の現場で工事を担当する河本工業（株）の協力により、桐生工業高等学校建設科1年の生徒40名を対象に現場見学会を開催しました。

最先端の技術（ICT）建機操作とドローン操作体験・体感、また、レーザースキャナー測量などを見学することで、未来の建設業を担う若手技術者に建設業への関心・興味を深めてもらいました。



【レーザースキャナー測量のモニター確認】



【ICT建機操作体験】



【ドローン操作体験】



【講義後質問をする生徒】

■参加者の声

- ICT建機を実際に操作し、安全で正確に作業が出来ることを知り、建設業のイメージが変わった。
- ドローン操作は意外と簡単で、人の行けない場所も撮影でき、工事現場に欠かせないものだと感じた。
- レーザースキャナーが自動で動いてデータを取りその場でパソコンで見られることに驚いた。
- 工事で川が半分に仕切られていた光景に驚いた。
- 女性も一緒に働ける良い現場だと、好印象を持った。
- 仮設トイレに鏡・水道が付いていて、綺麗さにびっくりした。
- 勉強を頑張り、資格取得もしたいと思った。
- 将来土木関係の仕事に就きたいので、今後の技術進歩が楽しみ。



【当日は新聞社の取材もあり、後日新聞記事で報道されました】

地域インフラサポートプラン関連とは？

高齢化や就労者の減少が進む建設業会の10年先を見据え、新たな担い手の確保や若手技術者の定着、i-constructionの推進（情報テクノロジーを活用した生産性の向上）により、建設産業全体の生産性向上を図る取組みの活動支援のこと。

活動内容： ①担い手の確保・育成 ②生産性の向上 ③建設現場の魅力発信

足利大学 現場見学会

境野町地先堤防法面補修他工事 石川建設（株）

2月8日（金）に、桐生川右岸境野町地先で工事を施工する石川建設（株）の協力により、足利大学創生工学科の3年生9名（男性8名、女性1名）を対象に、情報通信技術（ICT）を活用した見学会を開催しました。

建設業への関心・興味を深めてもらうために、最先端のICTを活用した建設機械の操作体験や、人工衛星を活用した測量体験の他、VR（仮想現実）を用いた工事事故の疑似体験などが行われました。

当日は地元テレビ局や新聞社の取材もあり、見学会の様子は、テレビニュースや新聞記事で報道されました。



実際の現場映像で建設機械の動きをシミュレーションすることが出来ます

【VRによる事故体験】



タブレットを操作して測量します

【人工衛星を活用した測量体験】



運転席のモニターでは自動制御で作業を行う建設機械の動きが確認出来ます

【ICT建設機械の操作体験】



現場体験された足利大学の皆さま

【記念撮影】

見学会を実施して

見学会当日は北風が強く、寒い中での開催となりましたが、参加した学生の皆さんは、人工知能によるマシン制御など最先端技術に直接触れ、貴重な体験となったようです。

（担当：桐生出張所）

「わたらせ 川のふれあい館 せせら」前の渡良瀬川へ サケの稚魚を放流しました

～Part2



渡良瀬漁協 山野井組合長様

～ 受精卵を提供いただいた 渡良瀬漁業協同組合 山野井組合長からのお話 ～

『今日放流したサケの稚魚は、春先までの数ヶ月間を渡良瀬川で過ごし、渡良瀬川を下って利根川へ入り海へ出ます。そこから北の海を目指し、そこで大人に成長します。3～4年先の秋から冬にかけて、自分が生まれ育った渡良瀬川へ戻ってきて、卵を産みます。今日は沢山の稚魚を放流しましたが、大人になって戻ってくるのは、100匹のうち数匹だけです。それほど自然界は厳しいのです。』



放流会に集まった皆さま



稚魚を放流する小学生



川の水をバケツに入れ
水温になれさせてから
放流しました



自宅で育てた稚魚を放流する親子



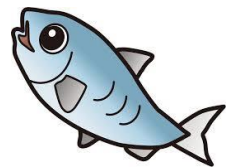
記念撮影



放流したサケの稚魚

参加者からの声

- ・毎年参加しているが、今年は成長が悪く、ふ化せず多数が死んでしまった。
- ・暖かい日も多く、水温が上がらないよう気をつけて育てた。
- ・稚魚は例年よりも大きくならなかったため、無事に成長するか心配。
- ・今回は頂いた稚魚を放流したが、1匹でも多く戻ってきてほしい。
- ・生き残った数匹を放流した。放流日まで死なせずに育てるのは、難しかった。



(担当：調査課)



国土交通省関東地方整備局
渡良瀬川河川事務所

〒326-0822
栃木県足利市田中町661-3

<http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/>
TEL: 0284 (73) 5551
FAX: 0284 (73) 8504



渡良瀬川で羽を休める
マガモ

紙面についてのご意見やご感想をお待ちしています。
パソコンからは渡良瀬川河川事務所ホームページの「お問い合わせ」からご投稿いただけます。
電話・FAXは左記番号へ、郵便の場合は左記住所
「渡良瀬川河川事務所地域広報官」宛でお願いします。

川の防災情報
リアルタイムの雨量と水位を知りたい時は
<http://i.river.go.jp>

